

●沼津支局 055-962-1123 FAX:055-962-5964
 ●静岡総局 054-255-2121 FAX:054-255-2124
 ●島田支局 0547-37-6283 FAX:0547-33-0026
 ●東海本社 053-421-7711(大代表)
 報道部 053-421-6036 FAX:053-421-5218

熱海 0557-81-2824 FAX:0557-86-0029
 下田 0558-22-1026 FAX:0558-25-0007
 伊豆 0545-51-2133 FAX:0545-55-0069
 三島 0557-45-8885 FAX:0557-45-1945
 055-975-3525 FAX:055-975-3567

購読のお申し込み:0120-026-999 集金・配達お問い合わせ:03-6910-2556 広告のご用命:053-421-9118

源泉掛け流しが自慢の宿
 天城・湯ヶ野温泉
 0558
国民宿舎かわづ (35)7111
スタンダードプラン 6,630円
 ※休前日 プラス1,000円、トイレ付和室 プラス1,000円

静岡



竹粉砕機「モウソウチキ」でチップ化する員＝伊豆市姫之郷で

森林整備などを手掛ける伊東市のNPO法人「伊東里山クラブ」は、放置竹林を手入れし、商品化しやすい形でタケノコを育てる「モデル竹林」計画に乗り出した。将来的に間伐などで出る竹材も販売し、環境ビジネスに育てる考え。「積極的な試行錯誤」と、会員たちはモデル竹林づくりに意欲を燃やす。(酒井健)

放置竹林 環境ビジネスに育てる

伊東のNPOが挑戦 間伐、タケノコや竹炭販売

暖かい天気に恵まれは中国産に押され、竹うになると、タケノコはシーズンのはじめの早い時期に顔を出す。そのタケノコを、運びやすく、味の良い小型サイの竹を細かいチップに砕いて、竹の硬い破片があまりに飛び散り、体にも当たる。かさばる竹を斜面から運び作業もあり、かなりの重労働だ。

「放置竹林整備の二つ、一方は、地域住民や林も、昔は畑だった」と、高野政英さん(左)はして売り出す。大きなチップや竹炭にウチクに覆われたの形ができれば」と、企業の社員らが竹林づくりに参加して、里山に親しむ催しも企画する。竹林は昔、われわれの生活を潤していた。間伐して、地面に太る高野さんは、売り上げで維持管理費や労務千八百十円で、一九八八に着手する方針だ。

「話」

費用を確保できれば、NPO法人として成功し、将来を見据える。クラブの活動には、県立田方農業高校(函南)で農場長を務める松井正樹教諭(右)が協力し、竹チップの有効活用を模索している。乳酸発酵させて堆肥や家畜飼料にしたり、家の足元に敷く敷料にしたり。ただ、始めてまだ一月ほど。成果が見えてくるのはまだ先の話という。

◆ 全国で問題化して久しい放置竹林。県に傾斜地を中心に整備を続ける一方、来年度、再び放置竹林面積の調査に着手する方針だ。

八年度の約千八百六十畝に比べ、約一・三倍に増えている。増加分はほぼ、放置竹林とみられる。

近年は、各地のNPO法人や住民組織が放置竹林整備や竹材の有効活用に取り組んでいるが、全体の面積に対しては小規模。「放置竹林の拡大が止まらな」と県担当者。高野さんは「それぞれ、地元の小な取り組みで良いと思う。里山を地域の共有財産として大切にしよう」と考えている。

放置竹林は、スギやヒノキ林を侵したり、森林の保水力を奪ったりする問題を引き起こす。県は住宅や道路に近い傾斜地を中心に整備を続ける一方、来年度、再び放置竹林面積の調査に着手する方針だ。

